

尿酸定量[尿]		14000			
		担当部署			
U-UA		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	新鮮尿	2 3 スピッツ	なし	10	mL
2	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			

生物学的基準範囲		設定なし				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>尿酸はヒトを始めとする霊長類にあってはプリン体異化の最終産物である。尿酸は主として肝臓で生成され、腎糸球体でほぼ完全に濾過されるが、実際に尿中に排泄される量は6-10%程度であり、尿細管での再吸収が考えられる。古典的な4-component theoryでは近位尿細管でほぼ100%再吸収を受け、その後近位尿細管末端部で約50%が尿中に分泌され同部位で40-44%が再び再吸収を受けるとされていたが、近年URAT1などの尿細管での尿酸の転送に関わる蛋白が複数同定されておりその分布などは上記のような単純なものではないことが明らかになりつつある。</p> <p>尿酸は生理的条件では大半が尿酸Naとして存在しているが、尿酸Na、尿酸ともに血中、尿中での溶解度は低い。このため体内や尿中で尿酸Naの結晶沈着が起りやすく、種々の疾患の病因となっている。</p> <p>一方、尿酸は強い還元力を持っており、その抗酸化活性の面からも近年注目されている。</p> <p>日本臨床第7版 654,2009</p>				